

2008年度

埼玉県まちづくり実行委員会 活動報告

《報告日》 09年6月2日(火)

【開催日】 09年5月29日(金)

《報告者》 労組名 八木橋労働組合
氏名 茂呂 貴裕

【開催場所】 さいたま市
大宮ソニックシティ 904会議室

【参加者】

坂庭 (八木橋労組)	堀口 (矢尾労組)	野口 (全ヤオコー労組)
茂呂 (八木橋労組)	矢作 (高島屋労組大宮支部)	高野 (ベルク労組)
篠原 (丸広労組)	宮崎 (丸広労組)	町田 (矢尾労組)
天野 (全ヤオコー労組)	小高 (丸広労組)	澁谷 (JSD本部)
渋澤 (ベルク労組)	鈴木 (丸広労組)	

【内容】

1. 講演『労働組合とまちづくり』
2. 埼玉県『いつどこ彩ネット』について
3. 今後の具体的な活動について

(会議資料)

- ①第2回代表者会議 レジюме
内容・前回の活動報告
 - ・埼玉県の農林業の概要、農業構造『2008年埼玉の食料・農林業・農山村』(埼玉県農林部編集)より抜粋
 - ・『いつでもどこでも埼玉産ネットワーク』とは?
 - ・「深谷ねぎ焼酎：ねぎらい」の発売について
- ②講演用レジюме
 - ・「労働組合とまちづくり」
 - ・講師の主な参加組織の設立趣旨等をHP

講演：『労働組合とまちづくり』

講師：経営コンサルタント 藤木 照治 氏

株式会社グローバルオープンシステム 代表取締役
埼玉県グリーン・ツーリズム推進協議会 理事長
NPO法人 えがおつなげて 理事
NPO法人 南アルプス山の学校 副代表理事
NPO法人 埼玉ツーリズム協議会 副代表理事
まちづくりサポートネット元気な入間 会員



【まとめ&感想】

まちづくり実行委員会代表者会議を開催するにあたって、今回ほど悩んだことはありませんでした。

埼玉県まちづくり実行委員会では、前回の代表者会議において埼玉県の宝物を農業に絞込み、今回の代表者会議に埼玉県の農業問題を取り扱う団体の方を招く予定になっていました。しかし、①すでに議論は具体的な行動に移す段階まで来ているので、単なる事例紹介に終わってしまっただけでは意味が無い。②農商工連携のスキームを利用したり、農商工連携に参加出来るのが理想だが、埼玉県まちづくり実行委員会のように専従行動する者がおらず、しかも企業ではなく労働組合（連携を求められる側は母体の企業を見ている。また全ての労使間で農商工連携の考え方が共有できているわけではない）が参加することに、相手がメリットを感じず、スキームに加わるには、説得力が足りないのではないかと？中途半端に参加されては相手も迷惑だろうし、かといって、こちらの主導でスキームを作るのは困難である。③出来れば商売に繋がるものが好ましい。企業参入が出来る。

上記のような理想と現実に取り組みることのギャップに悩み、労働組合がまちづくりに関わっていくということが非常に難しく感じられ、煮詰まっていました。

ただ悩んでいても何も進まないで、何かヒントが得られないかと思い、前々から気になっていた「NPO法人埼玉ツーリズム協議会」さんに連絡を入れたところ、相談に乗っていただいたのが今回ご講演いただいた藤木さんでした。偶然ですが、藤木さんは昨年のもちづくり実行委員会代表者会議でJSDがお世話になった曾根原さんが代表を務める「NPO法人えがおつなげて」の理事を務めており、「NPO法人えがおつなげて」を曾根原さんと共に立ち上げた方でした。（余談ですが、失礼にも代表者会議の5日前にお願いしたにも関わらず快く引き受けてくださいました。）

講演を聴くと、今までの悩みが嘘のように無くなり、まちづくり活動への考え方を大きく変えることになりました。

まず、今までは労働組合という枠にこだわり過ぎていたようです。私たちは労働組合の代表者ですが、同時に地域社会の一員でもあります。当然企業の一員でもあります。まちづくりというのは、一個人がどのように地域社会に貢献していくことが出来るのかということであり、その延長線上に枠を広げて市民団体、企業、労働組合があるのだということに気づかず、“労働組合が行うまちづくり”にとらわれ視野が狭くなっていたようです。

また、商売に結び付けようとして形にこだわっていたこと、まちづくりのスキームを作るといった直接的で大きすぎるビジョンを持っていたことも足枷になっていたようです。

重要なのは、地域活性化を限定的（人、団体、場所、時間等）に捉えずに、まちづくり、地域活性化のビジョンをしっかりと持った上で、最終目的に通じるであろう活動を継続していくことだと気づきました。今後は急がず、場所に限定せず、すぐに商売に結びつけず、出来ることから取り組んで行こうとの考えが実行委員に共有できたと思います。

【次回開催予定内容】

2009年夏開催予定 農業体験をしよう！

今回お世話になった藤木さんに農業体験のコーディネートをお願いし、農業でのまちづくりの第一歩とする。